

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(玄海灘ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	令和3年10月11日	評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

館を出ると、目の前には田んぼが広がり、その先には苺の長いビニールハウスが見え、のどかな景色に心が安らぎます。館内は時間に追われることなく、ゆっくりと過ぎていき、入居者も自分の時間で自由に過ごされています。入居者が楽しみにされているのが外に出かける行事です。正月は町内の馴染みの神社に初詣に出かけます。花(桜・梨・あじさい・コスモス)見学には、お弁当やおやつを持って出かけます。地元は吉野梨の産地で、果てしなく広がる梨畑の真っ白な花は見ごたえがあります。館内での行事も楽しみにされており、節分・夏祭り・敬老会・運動会・クリスマス会を実施しています。日頃は家族や知人等の訪問が多く、家族とのつながりを大切にしていますが、昨年からのコロナ禍で面会が出来ない状態です。入居者が寂しい思いをせず、楽しく安心して生活できる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年入居者の入れ替りが多いという過度期と、コロナ感染症予防という困難な状況に、職員は毎月目標を持ちながらケアに取り組み、高齢化・重度化傾向に看取りケア等の研修や会議を重ねる等職員一人ひとりが志向を高くして臨んでいる。コロナ禍という現状に、ホーム内での楽しみ事(大運動会や夏祭り等)や初詣として「やすらぎ神社」を拵える等創意工夫しながら今できる最大限のケアにより笑いや喜びを引き出し、入居者の活性化に努めている。家族や地域との交流が出来ない状況に、入居者同士の関係が築かれ、ユニットの垣根を無い日常は穏やかである。運営推進会議を審議とする中で、介護保険制度の学びの場として開催を心待ちにされる地域委員の声にこれまでの関わりが表われており、地域との交流促進にこの会議が一役を果たすであろうと大いに期待したい。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有は出来ていると思うが、実践に繋がれているものは少ないと思う	基本理念5項目を継続し、玄関等への掲示により意識付けとし、職員会議の中で理念を基にした話し合いを行っている。コロナ禍の中で、理念に掲げる地域の皆様との共存共栄はこれまで通りとは行かない状況にはある。	毎月目標を掲げる等職員が心を一つにケアに真摯に取り組まれている。開設当初からの理念であるとともに、入居者の入れ替りもありケアに直結する理念であるか再考いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が広がり、面会禁止が長く続いており、以前から少なかった地域との交流が全く出来ない状況となっている	外に出ることが制限されるなかで、農作業中の地域の方々との歓談等外に出ると気軽に声を掛けられる関係は出来ているが、これまで通りの交流は行われていない。	老人会の会合参加を、ホームの啓発の一環とされていたが、現在は途絶えているとのこと。コロナ感染症が収束すれば、入居者と地域住民との交流の場を検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族への認知症の理解や支援はできているが、地域の人々への支援は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で会議を開く機会が少ないが、委員さんに書類送付し、意見を求め、サービスの向上に活かすようにしている	運営推進会議の開催を役場に相談し、書面開催として職員会議の議題やすらぎ便り等を添えて送付し、意見や質問を出してもらう事としている。介護保険制度の学びの場として、開催を心待ちにされるメンバーもおられるようである。	回を重ねることで形骸化しかねない。運営推進会議構成メンバーとして例えば民生委員や老人会、婦人会等に依頼されることで、更に地域の課題も見いだせるかと思われ、検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所当てに来たアンケートなどで、わからない点などは役場に聞いたり相談したりして協力してもらっている	行政担当部署へ洪水時の避難訓練方法を問い合わせたり、経済問題(生保)での相談を行い、ホーム側も介護計画書提出に出向く等連携を図りながら入居者を支えている。新型コロナウイルス感染対策の質問等不明な点は随時連絡し、ワクチン接種の相談をしている。行政からの依頼による入居等もあり協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、利用者の人権を守りながら、安全で自由な暮らしを支援できるように取り組んでいる	運営推進会議を身体拘束適正化委員会としていたが、書面開催としているため身体拘束等勉強した資料を委員に郵送している。身体拘束について職員会議での勉強会や、虐待の芽チェックリスト等を活用し意識強化を図っている。転倒危険性の高い入居者に、家族への説明と了承を得てセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待について話し合い、日々行っている事が虐待に繋がっていないか、見過ごされることが無いかに注意を払い、再度確認し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で議題に取り上げ学んではいるが、知識不足の所があり、家族に説明するまでには至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明を行っており、理解・納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話する機会を増やし、意見や要望を聞き取っている。家族とはなるべく定期的に連絡を取り、意見や要望を聞き取っている	家族にはホーム便りでの状況発信の他、訪問もままならない状況に電話で報告し意見等を収集する等何でも言い合える関係を築いている。また、衣類等の持ち届け時に要望等を聞き取りしている。入居者の中には管理者に直接要望や相談等を出されており、出来る限り要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	仕事内容や利用者に関する状況は管理者へ報告し、職員の意見として活かしている	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図ることで、職員が気軽に意見等を出しやすい関係を築く等風通しの良い関係にある。また、希望休を優先し、職員同士が協力しながらのローテーションとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも言い合える場を設けたり、個人に合った給与水準、労働時間等向上心を持って働ける気配り出対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学ぶ機会を確保したり、働きながら知識や技術を身に付けられるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、同業者間の訪問は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい状況と関係を作りながら、本人のペースに合わせ、本心が聞き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見をしっかり聞き、家族の思いを理解しながら、家族との信頼関係が持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人と家族が一番求めている事を支援し、その中でも徐々に見えてくるものがあるので、その都度それに合った支援を行っていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人として尊重し、本人と時間をかけて関わり、本人を深く知ろうと努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の状況の報告や、本人の意向を伝え、それと共に家族の意見・意向を取り入れ、一緒に考えることで本人を支える者同士の関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内に馴染みの人がいる時は、その人との交流を多く持ち、良い関係が継続出来るよう支援している。現在は感染症の流行で外部との交流が出来ていない	コロナ感染対策として家族の面会を中止している状況にある。入居者同士が馴染みの関係性にあるとともに、職員は地域の話題等で馴染みの関係が途切れない様に努め、昔の生活等を聞き取りしている。	家族との絆が継続出来るよう、窓越し面会を検討頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、良い関係が保てる環境づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どのような環境でも本人が安心して過ごせるように、細かいケアや工夫等情報を提供し、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は出来るだけ意向に添うように心がけている。家族の協力のできるような事等把握して取り組んでいる。	入居者との会話からの聞き取りや、入居者同士の会話からの把握、意思表示の難しい方には職員が簡単に答えられる様な会話(うん等の返事)に努め、笑顔をバロメーターとして捉えている。また、入居者の表情等から推察しケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から情報を得て、今までの暮らしに少しでも近づけるようT理組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員からの情報、各職員が得た情報を職員全員が共有し、把握できるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細かな状態変化にも注意し、現在の課題とケアが適しているか確認を行いながら、日々モニタリングを行い、介護計画を作成している。	入居者・本人の意向にもとにしたプランは、毎月の会議時の話し合いや3ヶ月毎のモニタリングにより継続可否を見極めている。入居者の排泄(失禁など)、詳細な状態の変化に話し合う等状況に応じ適宜プランを見直す等定期的な見直しの他、介護度の変化によるプランの見直し等現状に即したプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録し、職員が共有して支援できるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況によって、本人に必要とされるサービスがある場合、家族と検討してできる限りのサービスを提供できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が十分把握できておらず、うまく活用できていないので、地域資源を把握して、今後本人が自分の力を発揮して豊かな暮らしを楽しめるよう支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族に同意を得て協力医療機関への受診を行っている。他の医療が必要となった時はそれに依って支援している	現在、受診対応などの面から家族の了承のもと、全員が協力医療機関をかかりつけ医とされている。協力医とは夜間や緊急時も診察や指示を受ける事等強固な関係が築かれている。歯科については地域の医院へ必要に応じ通院している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置は無いので、1日2回のバイタル測定で状態変化や異常に気付いた時は協力機関へ相談し、個々の健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との協働はできている。支援室と情報交換を図り、わからない事や疑問は質問相談が出来る		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や状態変化があった場合には必ず今後のサービス内容や対応について話し合いを行い、事業所のできる支援を行っている	入居時に看取りに関する指針をもとに家族に説明し、意向を把握している。食事が摂れなくなった時点で医師を含め家族との話し合いの機会を持ち、状態に応じて再度思いや希望などを確認している。直近も主治医の協力のもと看取り支援が行われている。終末期ケアについて研修会を開催し、ホームの取組を共有しながら必要な対応について学んでいる。	重度化・終末期に理解のある主治医の存在は職員にとっても安心に繋がっており、入居者を偲びながら、振り返りの時間を持たれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当に関しての対応、訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回、昼と夜に行われている。洪水訓練を今年初めて館内での避難で実施した。	火災訓練として年2回、通報訓練を実施している。又、熊本シェイクアウト訓練に参加している。洪水の避難訓練では行政と連携して取り組み、9月の運営推進で報告されている。実際の洪水時は隣接する系列施設への避難としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの重要性や言葉使いに気を付けているが、まだ不十分である	入居者の呼称は苗字や同姓の方がおられる場合は、下の名など家族の了解を得て対応している。接遇を含めたチェックリストを活用し、入居者の誇りを損ねない対応に努めているが、命令口調になることがあるとして目上の方々である事や声かけなしに介助しない事などを共有している。	職員の声掛けや言葉使いでホーム内の雰囲気や入居者の気持ちも異なってくると思われる。改めて声掛け等の支援方法について振り返る機会を持たれることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら対応しているが、意思表示ができない方に対しては十分な支援が出来ていないかもしれない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ支援するようにしているが、職員の都合を優先してしまう事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んだりすることが出来ない方には、その人の好みに合った服を職員が準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った量や形、大きさなど、楽しく食事ができるよう提供している	主食のご飯(普通・おかゆ)をホームで炊き、他の副食などは系列特養で調理されている。入居者の殆どに食事介助が必要であり、量や食形態も個々に応じて提供している。職員はそれぞれ持参した弁当などを食事休憩を兼ねて摂っており、味や量などの確認を兼ねた検食者は持たれていない。	今後はホーム独自の食事作り(ホットプレートを使う等)の機会を持つ事も入居者の楽しみになると思われる。入居者の感想を代弁する検食者や系列特養での給食委員会への参加を検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分飲用量が少ない場合は、本人の好みを把握し、カロリー不足や水分不足にならないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて誘導・声掛け・準備・介助を行い、清潔保持に努めている。拒否のある方に対しても時間をかけ声掛けし、口腔ケアを実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の体力・状態を見ながら、可能な限りトイレで排泄できるよう工夫をしたり、時間を見て誘導するなど支援している	可能な限りトイレでの排泄を支援しており、日中は殆どがリハビリパンツの使用であるが、布パンツで過ごす方もおられる。夜間のみオムツやポータブルトイレの使用を支援している。尿量に合わせたパットの検討や、夜間のポータブルトイレはクロゼットの前に置き、蓋は開けておき誘導する事など、個別に支援されていることがプランから確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとってもらい、自力歩行の可能な方には館内で体を動かされるように促している。歩行ができない方は、便意を催す時間帯を把握し、トイレ派の誘導を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、拒否があった場合には無理強いせず、時間をずらしたり別の日に入ってもらおうようにしている	午前からの入浴を週2回支援されている。入浴拒否をされる方には、時間や順番を変える等工夫し無理なく入ってもらえるようにしている。湯船に浸かる方やシャワー浴が中心の方、身体状況に応じて2名体制など安全な入浴を支援している。自身で洗身される方には、見守りと後に職員により確認されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて自室で休憩される方もおられる。夜間に悩みや訴えがある時は傾聴し、少しでも不安を取り除き、安心して眠られるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用等、出来る限り把握し、状態の変化がないか確認を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を本人や家族に聞き、嗜好品や楽しみを見つけることができるように努めている。また月の行事などに参加していただき、楽しんだり、気分転換できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での外出は難しい。家族との外出は病院受診に限られている	外出支援はコロナの影響により減っており、家族との病院受診が外出の機会となっている。職員は庭先の散歩などへ声掛けを行っているが、年齢的な面からか好まれない現状である。今年の初詣ではホーム内に神社の鳥居に見立てたもの、賽銭箱を造り参拝や、予め用意したおみくじを渡す等外出に代わる工夫を行っている。	ホームは遠くの山を眺めながら、稲作の様子やいちごのハウスなど長閑な環境である。、今後も外気に触れる機会を楽しめるような声掛けや誘導に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はほとんどいない、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って応じ、プライバシーに配慮しながら、やり取りできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのあるものを置いたり、季節を感じられる飾りなどを設置している。ホールではテレビを観たり、ソファでくつろいだりできるスペースを確保している。メダカを飼ったり、季節の花を飾ったりしている。	日中は両ユニットの入居者が中央のリビングを中心に食事やレクレーション、テレビ視聴等で過ごされている。感染症対策として掃除や換気の徹底の他、対面を極力避けた席のセッティングが行われている。また、ソファでもゆっくり寛げるよう、入居者同士の相性や、一人で過ごしたい方など誘導にも配慮している。	経年と共に掲示物や告知文書の傷みなども見られることから、今後も定期的に見直されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格が合う・合わないを見極め、ソファでの席を誘導している。自由に動ける方は、気の合った人同士でソファに座り、会話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオ、夜具など、使い慣れた物を持ち込み、居室を馴染みのある空間にしている	居室には使い慣れた寝具、テレビやラジオの他、空気清浄機も持ち込まれている。感染症への対応から、現在、居室や衣類の管理は職員が行っているが、これまでは年間を通して居室での保管や衣替えの訪問など家族の状況によって支援されていた。昼食後は特に自由な時間としており、居室のベッドで横になる方も見られた。	本人の状態も見ながらカレンダーなど雰囲気や和らげる掲示物など、今後も職員のアイデアにより心地の良い居住空間作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かるように張り紙をしたり、安全に動ける様廊下などには物を置かないようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(有明海ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

館を出ると、目の前には田んぼが広がり、その先には苺の長いビニールハウスが見え、のどかな景色に心が安らぎます。館内は時間に追われることなく、ゆっくりと過ぎていき、入居者も自分の時間で自由に過ごされています。入居者が楽しみにされているのが外に出かける行事です。正月は町内の馴染みの神社に初詣に出かけます。花(桜・梨・あじさい・コスモス)見学には、お弁当やおやつを持って出かけます。地元は吉野梨の産地で、果てしなく広がる梨畑の真っ白な花は見ごたえがあります。館内での行事も楽しみにされており、節分・夏祭り・敬老会・運動会・クリスマス会を実施しています。日頃は家族や知人等の訪問が多く、家族とのつながりを大切にしていますが、昨年からのコロナ禍で面会が出来ない状態です。入居者が寂しい思いをせず、楽しく安心して生活できる施設を目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回職員会議を開催し、介護のカンファレンス等を通して実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は新型コロナウイルス感染症対策のため、面会禁止となっており交流が途絶えている。日頃から地域との交流は少ない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地域との交流は限られているが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため尚更地域への理解を発信できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍にあり、運営推進会議は行っていないので、やすらぎの里での行事・利用者の状況・職員の研修内容等、各委員さんへ書面にて報告は出来ている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡などわからない点があった場合は問い合わせを行うとすぐに返答してもらっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強会を行い、身体拘束の弊害を理解している。職員同士で声掛けを行い、ケアに取り組んでいる。玄関などの出入り口は開錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で定期的に虐待防止の研修を行い虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は事業所内で研修を行い、入居者のキーパーソン等改めて確認し、制度が活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の契約内容と変更がある場合には、十分な説明を文書にして理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今は面会は出来ないなので、家族から電話などがあつた時は、必ず利用者の近況を報告し、家族からの要望や相談に応じ、要望等できる限り運営に反映させるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で各自が自分の意見をきちんと言い、改善できることは改善するように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の働きぶりに対してのボーナスの査定はきちんとできているが、ハード面での職場環境の整備は行われていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はコロナ禍にあり、会場へ出向いての研修は行われていないが、ブロック会の資料により事業所内で研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会はない。コロナ禍であり、相互訪問等の活動はできない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話には耳を傾け、コミュニケーションを取り合い、安心して施設を利用して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って意見・要望を聞く事で、良好な関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の経済状況、家族の関係をスタッフ同士で把握し、福祉用具などの負担がかからないようなサービスの提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし、共感しあいながら、本人の特性を知る努力を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の困りごとがあった場合等、家族と相談したり、家族からのアドバイスを頂いたりして、入居後も家族と一緒に本人を支えていけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士、近隣の方々が多いため、地域の話題でコミュニケーションが取れるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろんな方と交流できるよう席替えを行ったり、職員が会話の補助を行う等、孤立せず支えあうような関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後もその方の落ち着き先が決まるまで、定期的に連絡を取ったり、本人や家族の相談に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や会話などから本人の希望や理想の暮らし方などに少しでも近づけるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基に、今までの生活が継続できるように、利用者へ寄り添うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体機能や精神状態に合わせて、無理強いせず見守りを行いながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議時、注意すべき点を話し合っている。3か月ごとにモニタリングを行い、それを全員で内容把握共有し、ケアに繋げている。プランが合わない時は変更プランを立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の個人記録は記入できている。申し送りノートで職員間での情報共有を行い、よりよいケアへ繋いでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に合わせて、その時々で支援できている。食事形態等、その時の状態に応じて変えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の祭りや行事も無いし、外出もできない状態である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診により体調管理できている。また体調不良時はかかりつけ医に相談し支持を仰いでいる。家族にも経過報告できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないので、緊急な利用者の変化に対しては、かかりつけ医に連絡し受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院へは書面で情報提供を行い、病院の連携室と連絡を取り合い、退院に関しては家族を含めて密に連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や終末期に事業所ができること、できないことを説明している。入居されてからもその都度、話し合いや説明を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の行動は全員共有しているが、応急手当の訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回、昼・夜行っている。今年初めて洪水避難訓練を行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・食事・入浴・自由時間等、生活全般において利用者の希望が通るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて対応できるように努力はしているが、職員不足時は、職員のペースになってしまう事がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の自己決定できない方については、本人の好みに合わせ、素敵に見えるように準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくできるように、気の合う人とは隣同士の席にしたりしている。下膳のできる人には自分の分を運んでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態となっている。水分量も利用者の好みに合わせ、お茶・牛乳・ジュースなどで確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施し、一人ひとりの能力に応じて介助を行っている。歯ブラシ・舌ブラシ・口腔ケアスポンジ・口腔ケアティッシュ等を利用者の状態に応じて使い分けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を心掛け、排泄チェック表を参考にし、定期的な声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の少ない方への水分補給の促し、運動量が少ない方へは一緒に館内を歩いたり、腹部マッサージなどをして、なるべく薬に頼らず便秘にならないよう心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、本人の拒否があった場合は、時間をずらして誘ってみたり、翌日に変更したりして、週2回は入浴できるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室で休息される方、ホールでくつろがれる方など、自由に過ごして頂いている。就寝は本人が希望される時間に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についてはある程度把握できている。症状に変化があった場合は、かかりつけ医に連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを本人や家族に聞き、施設でできる範囲で、花壇の手入れ、ぬり絵作成、テレビ鑑賞、ラジオを聞いたり、新聞や週刊誌を読んだり、タオルたたみの手伝い等、楽しんでされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出は行っていない。恒例行事の「あじさい見学」もできなかったのも、ホーム内にあじさいをいっぱい飾り、写真撮影などを楽しんだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で通帳を預かっている人はいるが、現金を所持している人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を読める人は居られるが、書ける人は殆どいない。家族より電話があった時は取り次いでいる。本人が電話をかけるのを希望された場合は支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節ごとの花を飾ったり、メダカや金魚等を飼ったり、季節ごとの飾りを行っている。カーテン等で光の調整を行い、全館空調の調整を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはいくつかのソファが設置されており、気の合う者同士で会話を楽しんだりされている。テレビを観たい方は、食事の時の席に座り鑑賞されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具・夜具・テレビ・ラジオ・時計などを設置し、くつろげるように配慮している。壁には家族の写真や誕生日色紙などを飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は同じ造りなので、自室がわかられないことが多い為、ドアに大きく部屋番号や本人の名前を貼ってスムーズに自室に入れるように配慮している		